

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年6月25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891400038		
法人名	社会福祉法人 愛正会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 やすらぎの家	ユニット名	—
所在地	〒318-0021 茨城県高萩市安良川963-9		
自己評価作成日	平成25年11月27日	評価結果 市町村受理日	平成26年6月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kani=true&JigyosyoCd=0891400038-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年1月28日	評価機関 決 済 日	平成26年6月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

御利用者様の立場に立ち、自宅で生活しているようにゆったりとした時間の流れを感じていただけるような穏やかな雰囲気サービス提供できるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は内科と外科のクリニックを併設しているほか、事業所とクリニックを挟むように「やすらぎドーム」と呼ばれる多目的ホールを併設し、地域の人々に開放している。
「やすらぎドーム」は、年間を通じて地域住民の集会や社交ダンス、太極拳、体操教室などの活動に利用されているほか、利用者と地域子ども達やボランティアとの交流の場所となっている。
職員は市内にある同一法人の施設と協働で自衛消防隊を結成し、合同防災訓練を行うほか、炊き出しの訓練を年1回実施している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務上で取り決め事を検討する際、職員全員が常時運営理念を反芻し、利用者の気持ちに寄り添うケアの提供に努めています。	「地域社会との交流を図れるような体制を整えます」との文言を含む、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。 管理者は理念をいつでも確認ができるよう職員の休憩室に掲示したり、カンファレンスで使う机の上に貼ったりして共有を図り、利用者と地域住民が交流できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通所サービス送迎の際には近隣住民への挨拶や声掛けを心がけています。 併設しているやすらぎドームを地域住民に開放しており、近隣高齢者の元気アップ体操等の活動に利用して頂いています。	併設している多目的ホール「やすらぎドーム」で敬老会やクリスマス会を開催し、利用者は近隣住民によるコーラスや日本舞踊の発表を見たり、交流したりしている。 夏祭りの時期には神輿を担いだ保育園児の訪問を受け、歌や踊りを見たりして楽しく交流を図っている。 年1回市の福祉センターが開催する文化祭に、利用者と職員と一緒に制作したつし雛やクリスマスツリーを地域の一員として出展し、見物に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での意見交換や、併設している在宅介護支援センターと地域包括支援センターの連携で地域住民への働きかけを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しています。利用状況の報告、意見交換等で業務改善に取り組んでいます。	家族等の代表や地域包括支援センターの職員、地域住民の代表、民生委員、外部の小規模多機能型居宅介護事業所職員の代表などで運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 会議では事業所の日頃の現状を理解してもらえるように努めたり、参加者が協力者となり、事業所の課題改善に向けた意見交換をしている。 参加者から出た意見をもとに、避難訓練に地域住民の参加を得ることができている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	在宅介護支援センターを併設しており、市の地域包括支援センターとの連絡調整を随時行っています。	在宅介護支援センターを併設しているため、地域包括支援センターと連絡を密にしたり、相談をしたりしているほか、行政の情報を得るなど、協力関係を築いている。管理者は利用者宅の住宅改修申請のために、高齢福祉課と相談しながら、利用者がサービスを円滑に利用できるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束廃止マニュアルに沿って11項目の具体的な行為やそれらに準ずる行為について理解しており、身体拘束を行わないケアを実践しています。	管理者は身体拘束廃止に向けたマニュアルを整備し、禁止の対象となる具体的な行為を理解しているが、やむを得ず身体拘束をしなければならないケースはこれまでにないため、全職員に身体拘束排除の研修を実施するまでには至っていない。玄関や居室は施錠することなく、職員は利用者が自由に活動ができるように見守りや付き添いの支援をしている。	全職員が身体拘束の内容とその弊害を正しく理解できるように、研修会を実施することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	御家族の介護疲れを予防できるよう連絡を密に取るよう努め、ストレスからの虐待につながらないようにケアしています。事業所内でもマナーブックにて社会福祉援助技術に基づく考え方、声掛けの仕方を職員に周知徹底しています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員マナーブック内の「利用者の権利擁護」項目について全職員に周知徹底しています。市の社会福祉協議会と連携できる体制があります。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、パンフレット等で説明を行い、わかりづらい項目については随時改めて説明させていただき、理解して頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、頂いたご意見等については真摯に受け止め毎日の昼礼（カンファレンス）にて検討し改善できるものについては即時改善を行っています。また、御意見箱の活用と共に御家族に気軽に話して頂ける雰囲気作りにも努めています。	毎年、利用者満足度アンケートを実施し、集計結果を利用者や家族等に報告するとともに、職員で課題を検討して運営に反映させている。 利用者からの要望は、その都度日々のケアのなかで把握しているほか、家族等からの意見や要望は送迎時や連絡帳で聞き取るように努め、「歩行訓練をして欲しい」との要望を受け、職員が付き添いながら自由に歩いてもらう時間を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の昼礼（カンファレンス）にて職員から利用者の状況・連絡事項・報告事項等を話し合っています。	管理者は月1回の職員会議や毎日の昼礼時に、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。 職員から出た、「行事に使用する備品を購入したい」や「職員が有給休暇を取り易いように管理者から呼びかけて欲しい」などの意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の昼礼（カンファレンス）、月に1度の職員会議にて職員からの要望、意見交換等を行い反映できるよう努力しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修（新人研修、新人フォローアップ研修、中堅研修）への参加。その他外部研修へ積極的に参加し、スキルアップできるよう努めています、		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高萩市ケアマネジャー連絡協議会に入会しており、市内各施設のケアマネジャー・病院ソーシャルワーカー間の勉強・研修・交流会を通じて相互のサービス向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問させていただいたり、雰囲気を見ていただくために来所させていただいたりとお話ししやすい環境づくり等に配慮し臨機応変に対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問させていただいたり、雰囲気を見ていただくために来所させていただいたりとお話ししやすい環境づくり等に配慮し臨機応変に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取り・アセスメントにより、最も必要とされているサービスを見極め、必要であれば小規模多機能居宅介護のサービス以外でも随時提案させていただきます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添うケアを常に念頭に置いてケアを提供しています、特に個人の尊厳を守る観点から介助しすぎない、お話を傾聴する等信頼関係の構築に努め、職員と一緒に高めあえるような関係作りを目指しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	継続的な関わりの中で、御家族・御本人間のそれぞれの思いをできるだけ把握し、それぞれの代弁者になったり、共感者になったり、より良い関係が築けるよう支援します。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初回面接等の御本人の状況把握の時に、地域との関わり、社会的な繋がり状況等を留意して聞き取り、お茶飲み友達の輪がある場合はそのコミュニケーションに干渉しないように配慮する等、留意しています。	職員は契約時のアセスメントや日々の係わりのなかで、利用者の馴染みの人や場所の把握に努めている。 これまでの自宅での生活を維持している利用者が多く、家族等の協力のもとで近隣住民との交流や馴染みの店での買い物など、昔馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格や個性を把握し、行動（言動）等からトラブルにならないよう適宜配慮しています。また、会話の間に入り、孤立しがちな方に対して話を促す等、配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約終了となっても、いつでも対応できるよう、柔軟な体制作りをしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人のニーズ把握に努め、無理強いないせず、利用者本位のケアを提供できるよう心がけています。	契約時のアセスメントにおいて、利用者の望む暮らしを利用者や家族等から聞き取り、基本情報に記録している。 管理者は利用者の言葉にならない「本当は宿泊しないで自宅で過ごしたい」などの思いを汲み取り、職員と情報を共有して利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接や定期的訪問等の継続的な関わりの中で、御本人に直接確認したり、御家族に聞いたり等情報収集をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初回面接や定期的訪問等の継続的な関わりの中で、御本人に直接確認したり、御家族に聞いたり等情報収集をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族からの情報をもとに、毎日の昼礼（カンファレンス）や、月1回の職員会議で検討し介護計画に反映しています。	介護支援専門員は職員と話し合いながら、利用者や家族等の意向にそった生活全般を網羅した居宅サービス計画を作成している。 職員は介護支援専門員が作成した居宅サービス計画を基に事業所のサービス計画を作成し、日々の支援で実践につなげている。 職員は月1回利用者宅において、利用者や家族等と一緒にモニタリングを実施するほか、職員会議で検討して現状に即した居宅サービス計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御利用者それぞれの個別生活支援記録に詳細にケアの実践、結果、気づきや工夫等を記入している。また職員間の申し送りノートにも記載し情報の共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な宿泊・通所希望にも柔軟に対応し、夜間の連絡体制も事業所の携帯電話を利用しいつでも連絡が取れる体制をとっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	おひとり暮らしの利用者に対し、別居の家族・近隣の住民や民生委員とも連絡をとり合い、地域の中で安心して暮らせるような環境作りに努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より診療情報提供書をいただき、サービス提供についての参考にしています。体調不良時に適切な医療が受けられるよう、連絡調整が密にとれるよう努めています。	利用者は希望する医療機関を家族等の支援を受けながら受診している。 利用者全員が家族等と受診しているため、医師に日頃の様子を適切に情報提供できるように、書類で利用者の状況を報告しているほか、家族等から主治医の指示や薬の情報を受けるなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノート、昼礼（カンファレンス）等で情報共有し健康管理・衛生管理を行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のメディカルソーシャルワーカーと連携し、情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と連携を取りながら、御本人・御家族にとって最良の方法を支援します。	看取りケアの実績がないほか、契約時に利用者と家族等に看取りは行なわないことを説明して同意を得ているが、重度化した利用者の緊急時の対応方針を明文化するまでには至っていない。 利用者の体調が悪化した場合は、職員は看護職員と協力して適切な対応と適切な医療機関が受診できるよう努めているが、緊急時の対応マニュアルを作成するまでには至っていない。	利用者が急変した場合に備え、協力医療機関や職員と話し合い、緊急時の対応方針やマニュアルを作成し、利用者や家族等に説明することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の行動マニュアルに沿って初期対応や連絡が適切に行動できるよう訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと定期的に防災（避難）訓練を行っています。また法人内の自衛消防隊があり合同防災訓練（通報・避難・炊きだし）を行っています。	近隣住民参加のもと年2回避難訓練を実施しているが、夜間を想定した訓練を実施するまでには至っていない。 避難訓練の実施記録を作成しているが、訓練で明らかになった課題を話し合うまでには至っていない。 災害に備え非常持ち出し袋のほか、冷凍食品や飲料水を3日分程度備蓄している。	全職員が昼夜を問わず避難ができる方法を身につけるため、夜間想定避難訓練の実施が望まれるほか、訓練実施後は職員で反省会を開き、出た課題等を記録に残して次回に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人の尊厳を傷つけることのないような言動や介助方法を心がけています。個人情報については施錠できるキャビネットに保管しています。	職員は利用者の人格を尊重し、命令口調や呼び捨てなどの声かけを禁止するなど、対応に配慮しているほか、職員会議において「プライバシー保護」に関する研修を実施し、全職員が実践できるように努めている。 個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自己決定できるように支援させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者のペースを第一に考えその人らしく過ごせるよう、個別の寄り添うケアを提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみなどにさりげなくお声掛けさせていただき、気分良く過ごしていただけるよう支援します。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事とおやつは、できるだけ御利用者と一緒に作業で行っております。	職員は独自の献立を自家菜園の野菜を取り入れて作成しているほか、敬老会やクリスマス会などの行事食は利用者の好みのものを提供している。 職員は外食を通じて利用者が好みの食事を楽しむことができるように、レストランのメニューをあらかじめ利用者や家族等に選んでもらえるよう配慮しながら外食支援をしている。 利用者と職員と一緒に同じ食事を楽しむ取り組みについては、職員はこの1年話し合いを重ねながら検討してきたが、集中して見守ることが必要な利用者が増えていることと、職員の休憩時間確保の観点から実施につながっていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に嗜好を把握し状況に応じて食べられないものは代替えする等工夫して提供しています。水分量は個別支援記録に記載し、少ない場合はお声掛けして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	来所時と毎食後、洗面台にてうがい・歯磨き・口腔ケアを支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の尊厳を配慮し、御利用者の状態に応じて定期的な排泄誘導や声掛けをさせていただき、快適に過ごしていただけるよう支援しています。	職員は排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握するとともに、一人ひとりのタイミングを計りながらトイレ誘導をして失禁の予防に努めている。 夜間は居室にポータブルトイレを配置し、おむつを使用せずにトイレで排泄ができるよう支援している。 トイレは車いす対応で広く、安全に配慮して可動式の手摺が設置されており、介助が必要な状態でも排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多くとっていただけるような献立作りをし、状況に応じて水分補給や軽体操等の声掛けを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個室にてお好きな時間に入浴して頂けるような体制で支援しています。	職員は利用者が好きな時間に入浴ができるように支援しているほか、入浴に抵抗を感じる利用者には安心して入浴できるように気の合う職員が対応するなどの工夫をしている。 職員は利用者と歌を歌ったり、季節に合わせて菖蒲や柚子を浴槽に入れたりするなど、入浴が楽しみなものとなるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて宿泊室を利用して休んでいただいています。また和室で横になっていただいたり等、自宅での生活スタイルと同様の環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬・臨時薬が処方されるたびに薬剤情報の写しをいただきファイルしています。用法・容量については一覧にし食事のたびに確認し確実に服薬できるよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人が主体性を持って活動できるアクティビティーが提供できるよう支援します。畑作業、外食、ドライブなど季節の行事等適宜行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御希望や天候によって買い物等外出する機会を増やせるよう支援します。	<p>天気の良い日の訪問サービスの際には、自宅周辺を外気浴ができるように促したり、事業所で過ごす時には事業所周辺を散歩ができるように支援している。</p> <p>自宅への送迎時に利用者の希望にそって買い物のために店に立ち寄ったり、気分転換が図れるように普段の経路とは違う道をドライブができるように努めている。</p> <p>管理者は年間の行事計画を立て、花見や紅葉狩り、外食、ドライブ、市主催の文化祭など、利用者が普段行けない場所にも出かけられるように支援している。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でお金を使う所はありませんが、御本人が利用料等を直接お支払いするケースもあります。個人で管理が困難な場合は、お持ちいただかないようお願いしています。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話をお取次ぎし、御家族と連絡をされている方もおります。特に制限はないため御要望があれば、適宜対応致します。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間でも衝立やテーブルの位置・ソファの向きなどにも配慮し出来るだけ快適に過ごしていただけるよう努めています。また、テラスのプランター、畑などが見えるようにして季節感を感じていただけるよう配慮しています。	<p>居間兼食堂はウッドデッキにつながっており、天気の良い日にはいつでも外気浴ができるようになっている。</p> <p>居間兼食堂には利用者が書いた習字の作品や季節が感じられるつるし雛が飾られ、明るい雰囲気となっているほか、ソファを配置したり、畳敷きの空間を設けたりして、利用者が思い思いの場所で寛ぐことができるように配慮している。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大人数で集まれるスペース、少人数で集まれるスペース、和室、宿泊用個室などその時の気分に応じて対応できるよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険なものでない限り持ち込みの制限はしていません。なじみの物を自由に持ってきていただいています。	職員は家族等の協力を得ながら、自宅で使い慣れた目覚まし時計やラジオのほか、電気毛布やひざ掛けなどの寝具類を持ち込んでもらい、利用者が居心地よく過ごせるような部屋づくりをしている。 泊まりの部屋には洗面台やベッド、整理箆箆などが備え付けられており、利用者が自ら衣類を管理したり、鏡で身なりを整えたりできるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	尊厳を傷つけないよう声掛けや対応を工夫し、残存機能を最大限発揮できるよう配慮しています。認知機能の低下した御利用者に関しては職員が統一したケアを提供する事で混乱を予防します。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護事業所 やすらぎの家

作成日 平成26年6月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看取りケアの実績が無い他、契約時に利用者と家族等に看取りは行わないを説明して同意を得ているが、重度化した利用者の緊急時の対応方針を明文化するまでには至っていない。 利用者の体調が悪化した場合は、職員は看護職員と協力して適切な対応と適切な医療機関を受診できるよう努めているが、緊急時の対応マニュアルを作成するまでには至っていない。	緊急時の対応方針を明文化し、緊急時の対応マニュアルを整備する。	緊急時の対応方針を明文化し、緊急時の対応マニュアルを整備する為関係機関と話し合い、職員会議等で検討する。	6ヶ月
2	35	近隣住民参加のもと年2回避難訓練を実施しているが、夜間を想定した訓練を実施するまでには至っていない。 避難訓練の実施記録を作成しているが、訓練で明らかになった課題を話し合うまでには至っていない。	夜間想定避難訓練を実施する。 訓練後の課題及び反省点を写真及び明文化し記録する。	夜間想定避難訓練を具体的に訓練計画に組み込む。 避難訓練後の課題及び反省点が検討できる会議を実施する。	6ヶ月
3	6	管理者は身体拘束に廃止に向けたマニュアルを整備し、禁止の対象となる具体的な行動を理解しているが、やむを得ず身体拘束をしなければならないケースはこれまでないため、全職員に身体拘束廃止の研修を実施するまでには至っていない。	全職員対象に身体拘束廃止の研修を実施する。	毎月の職員研修計画に組み入れる。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

